



# プロバスだより

## 第358号

2025年9月11日発行

編集・発行 情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年10月18日

2025～2026年度 テーマ

「楽しみ、学び、互助精神、奉仕を通じて輝くシニアライフを！」

### 第358回例会

日時 令和7年8月21日(木)

場所 八王子エルシィ

出席者 26名 出席率 74.3%

(会員総数 38名、欠席 9名、休会 3名)

#### 1. 開会

岩島例会副委員長

第358回例会開催を告げ、配布資料の確認が行われた。

#### 2. 会長挨拶

持田会長

本当に暑い夏が続いてお  
ります。この暑い中、久しぶ  
りに佐々木秀勝会員に出席し  
て頂きました。ありがとうござ  
いました。また、先月入会  
されました土井俊彦会員が例  
会に出席されました。皆さん  
の元気な姿に直接会えて話ができるといことはや  
はりお互いに素晴らしいことです。危険な暑さが続  
いておりますが体調管理しながら過ごしましょう。



さて、今年度の最大イベントである創立30周年記  
念式典が10月26日開催ですので、あと2か月にな  
りました。詳細の準備状況は後ほど委員会報告で行  
いますが、現在では参加者は予定の120名になりそ  
うです。当クラブで30名、会友10名、全国各プロ  
バスクラブから35名、八王子各親交クラブから35  
名、ご来賓15名の予定です。これからクラブの皆さん  
にはいろいろな役割分担をお願いすることになり  
ますが、ご協力のほど宜しくお願い致します。

このような大きな催物をする事でクラブの結束  
が強くなり、お互いの絆も深めることができること  
は事実です。会員の中には、体調不良やご家族の事

情から万全で活動に参加できない方もいらっしゃる  
と思います。それらの方には互助し合いながら進めること  
も大切です。いろいろ工夫しながら乗り越えてこれ  
らの活動を全員で楽しみながら今年度のスローガン  
である「輝くシニアライフ」にしたいものです。そ  
して、全国からのお客さまを温かくお迎えし八王子  
の素晴らしさをたっぷり知って頂きたいと思ひます。

#### 3. ハッピーボックス披露

丸山副会長からハッピーボックス15件の披露があ  
りました。(3～4ページに掲載)

#### 4. 卓話

1945年8月15日、どこで何をしていましたか

阿部 治子

私の生家は福島県信夫郡  
佐倉村、今は福島市で27代  
続いた庄屋です。昭和20年  
私は8歳でした。8月15日は  
とても暑い日で蝉の声がいつ  
ぱい聞こえていました。11時  
頃村人たちが手にザルを持っ  
て集まって来て中庭に敷かれた  
莫蔭に座っていました。天皇  
陛下のお話を聴くということで  
ラジオが中庭の縁台に置かれ、  
朝から大釜でトウモロコシや  
ジャガイモを茹でていました。  
暑い中を私の家族は黒の紋付  
羽織を纏っていました。玉音  
放送が始まりました。天を仰いで  
怒る人、下を向いて泣く人、  
手ぬぐいで涙を拭いている人  
等々。私には天皇陛下が何を  
話しているのか何が起ってい  
るのか何もわかりませんでした。  
放送が終わると、皆嘆きなが  
らトウモロコシやジャガイモを  
食べ、持ってきたザルに米を  
入れてもらい帰っていった姿  
が今でも目に残っています。思  
い返せば庄屋である生家は台  
風の時は避難所となり皆で朝  
までやり過ごし、帰りにはそ  
れぞ





の灯油(ともしあぶら)が使われていた。平安から戦国時代にかけては荳胡麻の油が主流を占め、戦国大名斎藤道三が、油座で得た資金と情報をもとに、美濃国を制する「国盗り物語」も大河ドラマの題材になったことがある。江戸時代になると荳胡麻に代わって菜種油が主流となる。土器で作った火皿に灯油を満たし、これに灯心を浸し、灯心の先に火をともし明かりで、この方法も平安時代から江戸時代までかわらない。

平安時代は、台座に立てられた支柱の上に火皿を置いた灯台が宮廷や貴人宅で使われた。また、木の枝や竹を三本結び合わせた結灯台もよく見かける。図1は「源氏物語絵巻」に描かれた灯台であり、図2が結灯台である。



図1 灯台 (中央)

平安時代にしろ、江戸時代にしろ、現在より夜は極めて暗く、ドラマでは明かりが大きな役割を果たしている。火皿の明かりは、火から30cmのところまで20ルクスしかない。本を読むのに適した明るさは300～700ルクスである。また、満月の灯りは0.2ルクスで、物の形や色がなんとか確認でき、新聞の見出しの字なら読める程度の明るさである。こんなことを考えながらドラマを見るのも面白い。



図2 結灯台

江戸時代になると、火皿は和紙で覆われて行燈になる。行燈に加えて、和蠟燭も使われるようになる。和蠟燭は燭台を使った直火のほか、ぼんぼりや提灯といった灯火具にも使われた。

和蠟燭は、漆や檜の実を原料とした木蠟である。用いた蠟の重量で大きさを表し、十目(匁)・三十目・五十目・百目蠟燭などがあつた。菜種油一升の値段、百目蠟燭一本の値段はそれぞれ米三升の値段と同じであつたというから、庶民が簡単に手を出せるものではなかつたようだ。ちなみに、百目蠟燭の明るさは60～70ルクス程度で、やはり暗い。

この、高価な油や蠟燭をふんだんに使つたのが、蔦屋重三郎が育つた吉原である。宝井其角の句に

「闇の夜も吉原ばかり月夜かな」とあり、吉原がいかに明るかつたがうかがえる。ただ、吉原では火事が多く、江戸時代の灯火具は残っていないため、浮世絵や草双紙で知るしかない。

吉原ではユニークな灯火具が使われていたようだ。葛飾応為の「吉原格子先之図」には、高さが天井近くまで達し、幅一メートル



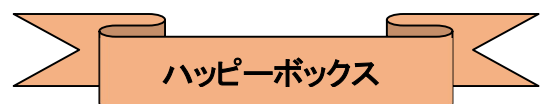
図3 吉原格子先之図

ほどの大行燈が描かれている(図3)。また、花魁の箱提灯(図4)も特大のものになり、「四斗樽程な提灯を押し分ける」という川柳からもその大きさがわかる。こんな光景も思い浮かべながらドラマを見ていると、何となくその時代の空気を吸っているような気になる。



図4 特大の箱提灯

しかし、現在の明るさに比べれば実に暗く、現代人にとっては耐えられない夜を過ごしていたのであろう。ただ、本物の浮世絵の鑑賞には行燈の光でなければならぬと云われている。春信の幻想的な表現、歌麿のリアリズムには驚かされるそうである。もし本物の浮世絵を持っている方がいたら試してみたらいかがか。行燈の明かりを再現するのは簡単である。小皿にサラダ油でも満たし、ティシュペーパーでこよりを作って油に浸して火をつければよい。行燈の明かりの暗さを経験すればドラマもさらに楽しく感じるかもしれない。



◆暑さのため懸命に生きています。今日もハッピーです。 阿部 治子

◆赤道直下のシンガポール在住の娘家族が一時帰国しています。日本の暑さに驚いています。昔は、われわれがシンガポールに行つて暑さに驚きましたが

日本も熱帯地域になりました。水を飲んで耐えま  
す！！ 持田 律三

◆30周年記念式典まであと2か月となりました。ク  
ラブ全員で温かくお迎えしたいと思います。皆元気  
で会えればHAPPYです。 持田 律三

◆昨夜、娘が救急車で搬送。無事帰ってきました。  
安心しました。 永井 昌平

◆ベランダから八王子花火が見えるのですが、ひ孫  
のお陰で、久々に皆で鑑賞出来て幸せなひとときで  
した。 有泉 裕子

◆夏を乗り切るのにこんなに不安になったことは初  
めてです。共に頑張りましょう。 馬場 征彦

◆大変暑い日が続いています。皆様、身体にご留意  
されて元気にハッピーにお過ごしください。  
山本 通陽

◆とにかく暑い。年々酷くなっているような気がす  
る。我々人間がやってきたことへの自然からの警告  
か？ 一瀬 明

◆10月の30周年、あるクラブの人から問い合わせ  
があった。関心を持ってくれているのはまことにあ  
りがたいことと思う。 一瀬 明

◆80年前、10歳で八王子大空襲の折に命拾いしたわ  
が身、改めて平和の有難さが身に染みております。  
憂うべきは世界の現状で、相変わらず人間の狂気が  
大手を振ってまかり通っていることです。  
杉山 友一

◆取り敢えず不幸でないので、寄付1枚。  
野口 浩平

◆秋川溪谷のせせらぎが聞こえる五日市の黒茶屋で  
子供たち、孫たちが勢揃いして、私の卒寿のお祝い  
をしてくれました。孫たちの成長ぶりに耳を傾けて  
楽しいひと時を過ごしました。 岩島 寛

◆先日の八王子花火大会に珍しく家族総出で見物に  
行きました。と言っても、比較的近くの高台からで  
したが、大賑わいで楽しいひとときでした。  
田中 信昭

◆朝茶事に行きました。6時から10時まで清々しい  
楽しい時間でした。 丸山 恭

◆小1の孫の希望で三内丸山遺跡に家族旅行をした  
と聞き驚きました。次は茅野市尖石遺跡の「縄文の  
ビーナス、仮面の女神」の見学を薦めました。  
丸山 恭

## 俳句同好会便り

私の一句（八月の句会から）

河合 和郎

相変わらずの猛暑。それでもメンバー全員が出席  
して句会を楽しんだ。句会場の窓から庭の木々の茂  
りが見える。濃くなった緑の葉っぱに秋の近さを見  
る。さて、今月の一句は。

夏来る笑顔笑顔の孫来る 野口 浩平

今年も孫台風の襲来である。「夏休みはお爺ちゃん  
の家へ」を楽しみに。「笑顔笑顔」が孫たちの期待の  
大きさを表現して笑える。

手を肩に夫が支える遠花火 飯田富美子

「肩」の兼題句。もう花火見物の遠出はできない  
が自宅の庭からの遠花火は楽しめる。それとなく手  
を添えてくれる夫の気配りが優しい。

不気味なり入道雲が五座六座 馬場 征彦

これも異常気象の一つか。入道雲の一つ二つなら  
いつもの夏空だが、五座六座となるとこれはいささ  
か不気味。切迫感のある一句。

羅のそぞろ歩きや時の鐘 田中 信昭

浴衣や薄物姿で町をそぞろ歩く。観光地でのおな  
じみの光景。「時の鐘」は川越の象徴。小江戸の姿が  
一句から浮かぶ。鰻も焼き芋も旨いところ。

足弱る者にも炎帝容赦せず 石田 文彦

今年の夏は異常気象を詠んだ句が多い。「命の危険」  
とまで言われる猛暑。しかし、大自然は弱者にも容  
赦しないのが節理なのだ。

夕立や肩触れ合ふて軒の下 池田ときえ

「肩」の兼題句としてメンバー全員が選句した一  
句。当たり前の光景を当たり前に詠む。実はこれが  
一番難しい。肩の力の抜けた一句でもある。

補聴器を少し高めて虫の夜 河合 和郎

高齢になると難聴に悩まされる人が多い。詩心を  
くすぐる虫の音も聞こえないことには話にならない。  
文明の利器の力を借りて一句を。

### 編集後記

8月生れの会員はなくバースデーカード  
の贈呈はありませんでした。戦前の月別出  
生率は出生月による差が大きく1~3月に高  
く8月は低い傾向にあったと知りました。

情報委員会

